

2018年 5月15日 京都新聞掲載

洛和会ヘルスケアシステム総長の松村理司医師(69)が4月中旬、米国内科学会から名誉上級会員に選出された。最初に患者を診断し、臓器別の専門診療へ橋渡しする「総合診療」普及のため、先進の米国から医師を招き、若手の総合診療医育成に長年尽力したことが評価された。

松村氏は総合診療が日本でまだ一般的でなかった2001年、副院長を務めていた舞鶴市立舞鶴市民病院で、米国から医師を招いての臨床研修を始めた。自ら「大リーガー医招聘」と名付け、04年に移った洛和会音羽病院でも13年間で計72回実施。院外の研修医や医学生にも門戸を開いた。総合診療は、高齢者に多い複数の疾患を抱えた患者らに寄り添える医療として、役割が近年注目されて



松村理司医師

洛和会ヘルスケアシステム総長の松村医師 米国内科学会、名誉上級会員に選出

若手の総合診療医育成に尽力

いる。
米国内科学会は80カ国・地域に会員を持つ国際学会で、洛和会ヘルスケアシステムによると、名誉上級会員は米国以外の各国内科学会の会長級が選ばれることが多いが、日本の学会幹部でない松村氏の受賞は異例。松村氏は「長年続けてきた取り組みに海のかなたから光が当たり、誠に光栄」と話している。(鈴木雅人)